

一般社団法人全関西女子大学女子バスケットボール連盟主催  
**2024年度 研修会**

インテグリティの推進  
－ハラスメントなく、プレーヤーの成長を支援するため－

一社) 全関西大学女子バスケットボール連盟 専務理事 荒木初広

2025年3月15日（土）  
13:30～14:30  
@エルおおさか



1



## 研修内容

- ①13:30～14:20 インテグリティとは
- ②14:20～14:30 質疑応答



2

## インテグリティとは？

「インテグリティって何ですか？」  
「インテグリティをどう高めるんですか？」  
これらの質問に答えられますか？

では、質問を変えます。

「バスケットボールを通して、選手たちにはどうなってほしいですか？」  
「バスケットボールの指導を通して、あなた自身どうなってみたいですか？」

3

## インテグリティの定義

2019年、日本協会(JBA)が設立したインテグリティ委員会では、インテグリティの精神（誠実さ、真摯さ、高潔さ）に基づき、人間力・指導力・組織力を高め、バスケットボールの価値を高めるための指針決定および啓発活動に取り組んでいます。

暴力暴言をはじめとする、すべてのハラスメントのないバスケットボール界を目指し、皆様のご理解とご協力なくしては実現できないものと考えます。

### インテグリティの定義

「インテグリティ」(integrity)とは、誠実、真摯、高潔などの概念を意味する言葉。組織のリーダーやマネジメントに求められる最も重要な資質、価値観を示す表現。

4

## JBA（日本協会）の宣言

「インテグリティ」とは、そういう「コーチングへの情熱や子供たちの成長への期待」、「バスケットボールが本来持つ魅力や素晴らしい」を「みんな」で守り、高め合う精神のことです。

ここで言う「みんな」とは、競技者・指導者・審判・運営・観客（保護者）など、バスケットボールに関わるすべての方々（バスケットボールファミリー）です。

そこで、JBA（日本バスケットボール協会）では以下のことを宣言しています。

「クリーンバスケット、クリーンザゲーム～暴力暴言根絶～」

5

## インテグリティの意義

「インテグリティ」を守り高めることは、公式戦での試合の時にだけ適応されるものではありません。

普段の練習や練習試合など、日頃から「プレーヤーズセンタード」を目指したコーチングの実践をすることによって、指導者も競技者も「インテグリティの精神」が培われます。

**インテグリティとは、審判が判定するテクニカルファールであると勘違いしていませんか？**

審判が判定するコーチの“ふるまい”に対するテクニカルファウルは、「インテグリティの精神」のごく一部分であり、決してその人の人格まで否定しているわけではないことを理解してください。

**感情に支配されて、コーチングを忘れている時はありませんか？  
自分自身のコーチングを直視することはできますか？**

6

## インテグリティの実践 (1)

インテグリティ (integrity) とは、誠実さや正直さ、倫理的な誠実性を指す概念です。特に個人や組織の行動が、道徳的な原則に基づいていることを意味します。インテグリティを持つ人は、自分の信念や価値観に忠実であり、他人に対して公正であり、約束や責任を守ります。

1. 誠実性 (Honesty) - 嘘をつかず、隠し事をせず、正直であること。
2. 道徳的な一貫性 (Moral consistency) - 自分の価値観や信念に基づいて行動し、倫理的な選択をすること。
3. 責任感 (Responsibility) - 自分の行動や決定に対して責任を持ち、他人に対して公正であること。

バスケットボールにおけるインテグリティは、選手、コーチ、審判、さらにはチーム全体が誠実かつ公正な方法でプレーし、競技に参加することを意味します。

7

## インテグリティの実践 (2)

### 1. 誠実なプレー

選手がルールに従い、フェアプレーを実践すること。例えば、故意にファウルをして相手を不正に妨げたり、反則を犯して得点を狙うような行為を避けること。

競技中に相手選手や審判に対して不正な態度や暴力的な行動を取らないこと。

### 2. スポーツマンシップ

勝利だけでなく、敗北も潔く受け入れる態度。試合後に相手チームと握手を交わす、勝敗に関係なくお互いを尊重することが求められる。

フェアな競争の中で、相手を尊重し、感謝の気持ちを示すこと。

### 3. 審判への尊重 (リスペクト)

審判が下す判断を尊重し、その決定に従うこと。審判に対して無礼な態度を取ったり不当なプレッシャーをかけたりすることなく、誠実なプレーを維持すること。

### 4. 試合における公正さ

チームや選手が、試合の結果を左右する不正な行動（例えば、八百長や賭博など）をしないこと。競技の信頼性とインテグリティを守るために重要である。

8

## インテグリティの実践 (3)



### 5. 自分自身とチームの倫理的な行動

チーム内でお互いを尊重し、公正にプレーすること。チームのメンバーが協力し、個人の利益よりもチーム全体の勝利を優先する姿勢が求められる。

ドーピングや不正行為を避け、正々堂々と勝負すること。

### 6. 教育と模範的なリーダーシップ

コーチやペテンラン選手が若い選手に対してインテグリティの重要性を教え、模範を示すこと。スポーツの中でのインテグリティは、プレーヤーの成長だけでなく、コミュニティ全体に良い影響を与える。

バスケットボールのインテグリティは、競技自体の魅力や信頼性を支えるだけでなく選手たちの人格をも形成し、観客やファンに対してもポジティブなメッセージを伝える重要な要素である。

9

## コーチのふるまいや言動への警鐘



### 1. コーチのプレーヤーに対する暴言

人格、人権、存在を否定する言葉

〈具体例〉 最低、クズ、きもい、邪魔、出ていけ、帰れ、死ね、  
てめえ、この野郎、貴様

自尊心を傷つける、能力を否定する言葉

〈具体例〉 役立たず、下手くそ、アホ、バカ

身体的特徴をけなす言葉

〈具体例〉 チビ、デブ

恐怖感を与える言葉

〈具体例〉 殴るぞ、しばくぞ、ぶっとばすぞ、帰りたいの？、  
試合出たくないの？

10



## 2. コーチの暴力的（攻撃的・虐待的含む）“ふるまい”（行動・行為）

- ・殴る・蹴るなどを連想させる行為
- ・プレーヤーと近接（顔の目の前、腕一本分より近い距離）して高压的威圧的に指導する行為
- ・「おい！」「こら！」と大声でプレーヤーを高压的威嚇的に指導する行為
- ・継続的、かつ、度を超えた大声でプレーヤーを指導する行為、いわゆる怒鳴りつける行為
- ・物に当たる、投げる、床を蹴るなどの行為

## 3. 第三者が不快と感じる“ふるまい”（行動・行為）

- ・不潔な服装、裸足やスリッパでの指導

11

## スポーツ指導者に求められる役割



### 1. 誰もがスポーツを楽しめるようサポートする

スポーツは、性別や年齢、障がいの有無などに関係なく、すべての人々が自発的に楽しむものです。

### 2. プレーヤーとは相互尊敬の関係を

常にプレーヤーのことを中心に考えた指導を心がける  
プレーヤーの人権や尊厳、人格を尊重し、誰に対しても公平に接する

### 3. 自分の権限について自覚を

指導者は、自分の持つ権限・優位性をしっかり自覚して、指導にあたっては自らの言動を律するよう心がける必要があります。

12

## スポーツ指導者に期待されていること



- ・スポーツの価値や未来への責任を理解することができる。
- ・プレーヤーズセンタードの考え方のもとに、暴力やハラスメントなどあらゆる反倫理的行為を排除できる。
- ・常に学び続けることができる。
- ・プレーヤーの成長を支援することを通じて、豊かなスポーツ文化の創造やスポーツの社会的価値を高めることに貢献できる。
- ・求められる役割に応じて、スポーツ医・科学の知識を活かし、「スポーツを安全に、正しく、楽しく」指導することができる。
- ・求められる役割に応じて、「スポーツの本質的な楽しさ、すばらしさ」を伝えることができる。

13

## スポーツ指導者としてのチェック項目



1. 理想とするコーチ像を持っていますか?  
コーチング哲学を持とう！
2. 自身のコーチングを振り返っていますか?  
省察と実践を繰り返そう！
3. コーチング環境や対象を理解していますか？
4. 倫理的なコーチングを心がけていますか？
5. プレーヤーの成長を支援できていますか?  
教えすぎには注意しましょう！  
主体的で対話的な学びを支援しよう！
6. 意見の対立があったらどうしていますか?  
協調的なアプローチを心がけよう！

14

## スポーツ・ハラスメントとされるケーススタディ



1. 愛のムチとしてピンタをくらわした
2. 制限を設けずにグラウンドを走らせ熱中症になった
3. ルールを破った部員に丸刈りを命じた
4. マッサージと称して部員の身体を触った
5. 先輩指導者の体罰をコーチとして見て見ぬふりをした
6. ミスの連帯責任として全員に正座させた
7. 「負けたのお前のせいだ」とキャプテンを罵倒した
8. 親がチームに協力的でないからと試合に出さない
9. 試合中にプレーヤーに対して汚い言葉で怒鳴る
10. 「どんなことをしても勝て！」とプレッシャーをかける
11. 自分の方針に異を唱えた選手を仲間はずれにした
12. 学校にパワハラを訴えた保護者をうそつき呼ばわりした
13. 私的な用事を選手に言いつけた
14. 根拠のない高負荷な練習でプレーヤーにケガをさせた
15. スキルがあるのに試合に出場させない

15

## その他留意すべき事柄



- ・コンプライアンスの遵守
- ・ハラスメントの撤廃
  - パワー・ハラスメント
  - セクシャル・ハラスメント
  - スポーツ・ハラスメント
- ・ドーピング知識の向上と備え
- ・SNSによる差別、誹謗中傷の防止
- ・違法ギャンブル（オンラインカジノなど）の抑制

16

## 映像による紹介

インテグリティ (JBA)  
PASSION · TOUGHNESS · RESPECT  
愛すべきバケットボールをさらに愛されるものへ  
<https://youtu.be/xAM8j0YeBIk>

スポーツインテグリティ  
<https://youtu.be/cucANo0F6DI>

NO ! スポハラ (JSP0)  
<https://youtu.be/3nBXZsVi0Vo>

17

## 参考文献の紹介

『実践！グッドコーチング』 PHP研究所編  
『実践！グッドコーチング レベルアップ編』 PHP研究所編

18